

## 実践例 「学習指導の深化・充実」

### 「課題6 主体性を育てる学習指導過程の改善・充実」

#### I 学校名 羽幌町立焼尻小中学校

#### II 研究の概要

##### 1 地域及び学校の状況

羽幌港からフェリーで約1時間離れた本島は、周囲12kmほどの小さな島だが、国定公園でもあるオンコの森等多くの自然に囲まれた島である。本校は小学生3名、中学生1名の計4名の児童生徒が在籍する小中併置校で、運動会や文化祭といった各種行事では、極少数ながらも中学生が中心となって互いに協力し合い、準備等を行っている。子どもたちは、本校の教育目標「自らよく学び 考えを深める子ども」「自ら心を開き 他を思いやる子ども」「自ら心身を鍛え たくましい子ども」のもと、学習や運動をはじめ地域行事への参加など様々な活動に意欲的に取り組んでいる。

##### 2 研究主題

主 題 確かな学力を身につけ主体的に活動する児童生徒の育成

副主題 問題解決的な学習の実践とICT活用の検証

##### 3 主題について

本校の研究主題は、問題解決的な学習を通して児童生徒が主体的に学び、確かな学力を身につけることができるよう、平成27年度に設定し、現在3年次計画の2年次目である。

今年度は昨年度の実践を基にして、児童生徒がより主体的に学びを進めるとともに、多様な考え方にふれ、学び合いや意見・考えの練り合いから資質や能力をさらに伸ばす機会をもつために、

- ・ICTを活用した指導による主体的な学びの実践
- ・問題解決的な学習における終末指導の充実による学力の確実な定着

を重点として研究を進めている。

##### 4 目指す子ども像

確かな学力を習得し、主体的に活動する児童生徒

##### 5 研究の仮説

- (1) 授業において教師や児童生徒がICT活用することによって主体的に学習に取り組み、学び方の幅が広がるとともに、教科の学習目標が効果的に達成されるであろう。
- (2) 問題解決的な学習を進める中で、終末指導の工夫を行うことで確かな学力を身につけることができるだろう。

##### 6 研究内容（主なもの）

###### (1) 視点1 ICTの活用について

本校では、ICTの活用とその目的について、以下の表に分類・整理し、何のためのICT活用かを細分化している。これによって、ICTが効果的に利用されているかどうかを、事前・事後に検証しやすくなり、学習の展開にも生かすことができるようになった。

	目的
教員による	(a) 学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるため
ICT活用	(b) 児童生徒一人一人に課題を明確につかませるため

	(c) わかりやすく説明したり，児童生徒の思考や理解を深めたりするため
	(d) 学習内容をまとめる際に児童生徒の知識の定着を図るため
児童生徒による I C T 活用	(e) 情報を収集したり選択したりするため
	(f) 自分の考えを文章にまとめたり調べたことを表や図にまとめたり，記録するため
	(g) わかりやすく発表したり表現したりするため
	(h) 繰り返し学習や個別学習によって、知識の定着や技能の習熟を図るため
その他	(i) 評価，その他上記以外での目的

iPad を活用した実践として，黒松内町立白井川中学校の生徒と，総合の発表を互いに Skype を用いて交流し，一人学習ではできない他者との対話の貴重な機会としている。

その他，冬季間はフェリー運航の関係で本町の A L T が来校できなくなり，ネイティブの発音を用いた英語学習の機会が得られなくなるが，冬季は W e b 授業として実施して A L T の指導を受けることで困難を解消している。

小学校ではお絵かきアプリを活用し，イラストを T V に表示しながら発表するなど，プレゼンテーションの技能を高めることにも活用できた。



## (2) 視点 2 終末指導の工夫について

自力解決した内容をふり返ったり，それを活用した問題演習をする時間を必ず取ったりすることで，学んだ内容を整理し，活用する力を身につけさせることができた。

小学校の説明文作りでは，iPad で文章を発表した動画を撮り，それを見ることで自分の説明文の内容を推敲したり，教員がそれを見て意見を伝えたりするなど，自分の作った文章を客観的に評価・改善することができた。

また，終末での学習活動を模造紙にまとめたり，録画した動画を見せたりすることで次時の導入に活用できた。

上:白井川中学校の生徒と Skype を用いた交流 (中学校)  
下:前時の終末のまとめ模造紙の活用及び動画を見ることによる効果的な導入 (小学校)

## (3) 成果と課題 (○が成果 ●が課題)

- I C T の活用により，児童生徒が意欲的に学習に取り組むことができるようになった。
- 動画や画像による資料の提示がスムーズに行えるため，準備や掲示の時間が短縮され，その分児童生徒の活動時間を確保することができた。
- 終末指導を意識することで，本時の目標と課題，まとめの整合性を図ることができた。そのため，本時で学んだことを生かして次時の学習がスムーズに取り組め，身につけるべき知識や技能を定着させやすくなった。
- iPad を活用したプレゼンテーション等，児童生徒自身が I C T を活用した取り組みは行っているが，今後もより効果的に I C T 機器を活用する方法を研究する必要がある (教育上有用なアプリケーションの検証，I C T を使ったプレゼンテーションの技能向上等)。
- 教科や単元，学習内容に応じた効果的な終末指導のあり方 (問題演習にするのか，まとめの発表などコミュニケーションを重視した終末指導にするのか等) を今後も検討する必要がある。